

2020年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年5月15日

上場会社名 株式会社Orchestra Holdings 上場取引所 東
 コード番号 6533 URL <https://orchestra-hd.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 慶郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 五代儀 直美 TEL 03(6450)4307
 四半期報告書提出予定日 2020年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第1四半期の連結業績（2020年1月1日～2020年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第1四半期	2,860	21.8	222	42.3	221	36.1	136	25.1
2019年12月期第1四半期	2,349	37.0	156	27.1	162	32.7	109	35.5

(注) 包括利益 2020年12月期第1四半期 136百万円 (25.1%) 2019年12月期第1四半期 109百万円 (35.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第1四半期	14.91	13.92
2019年12月期第1四半期	12.65	11.14

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第1四半期	4,026	1,430	35.6
2019年12月期	3,762	1,349	35.9

(参考) 自己資本 2020年12月期第1四半期 1,433百万円 2019年12月期 1,351百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	6.00	6.00
2020年12月期	—	—	—	—	—
2020年12月期（予想）	—	0.00	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2019年12月期期末配当金の内訳 普通配当 4円00銭 記念配当 2円00銭

3. 2020年12月期の連結業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,300	21.0	600	13.7	600	12.2	370	34.6	40.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社（社名）、除外 1社（社名）株式会社クラフトリッジ

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期 1 Q	9,157,200株	2019年12月期	9,156,400株
② 期末自己株式数	2020年12月期 1 Q	97株	2019年12月期	97株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期 1 Q	9,156,830株	2019年12月期 1 Q	8,630,347株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な原因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

技術進展が進むIT分野では、少子高齢化が進む中、今後IT人材不足がますます深刻化し、2030年には約45万人程度までIT人材の不足規模が拡大するとの推計結果が出ております。(出所:経済産業省委託事業「IT人材需給に関する調査」) デジタルトランスフォーメーション(DX)のトレンドが進展する中、生産性の向上や業務の効率化を目的として、クラウドファースト戦略を実行する企業が増加しており、2019年の国内パブリッククラウドサービス市場規模は、前年比22.9%増の8,778億円となりました。また、2019年~2024年の年間平均成長率は18.7%で推移し、2024年の市場規模は2019年比2.4倍の2兆644億円になると予測(出所: IDCJapan株式会社「国内パブリッククラウドサービス市場予測」) されておりますが、リモートワーク需要の高まり等から、今後もクラウドファーストに向けた動きは更に拡大していくものと判断しております。

デジタルマーケティング領域においては、引き続きインターネット広告市場が、2019年には2兆1,048億円(前年比19.7%増:株式会社電通発表)と伸長しており、テレビメディア広告費1兆8,612億円(前年比2.7%減:株式会社電通発表)を上回る規模まで拡大、その中でも主力サービスである運用型広告市場は1兆3,267億円(前年比15.2%増:株式会社電通発表)と大きく伸長しております。

このような環境のもと、デジタルトランスフォーメーション事業においては、引き続きクラウドインテグレーション分野の強化を進めるとともに、人材採用による開発体制の拡充を行い、当社グループにおける成長事業としての確立を推進してまいりました。デジタルマーケティング事業においては、主力サービスである運用型広告を中心に引き続き拡販を進めるとともに、デジタルトランスフォーメーション事業との連携により、MA/CRM支援を含むマーケティング全体の最適化を支援する体制を強化してまいりました。その他の事業では、プラットフォーム事業における新規ユーザー獲得のためのプロモーション施策を行うほか、新規事業への成長投資を行ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,860,637千円(前年同四半期比21.8%増)、営業利益222,947千円(前年同四半期比42.3%増)、経常利益221,715千円(前年同四半期比36.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益136,569千円(前年同四半期比25.1%増)となりました。

セグメントの経営成績を示すと、次のとおりであります。

① デジタルトランスフォーメーション事業

当事業においては、事業開始からM&Aを推進し、同時にIT人材の採用を行うことで開発体制の拡充を進めてまいりました。IT活用用の多様化・高度化に伴い拡大するIT需要を取り込み、クラウドインテグレーション、各種Webシステム開発、スマホアプリ開発等の案件受注が順調に拡大しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は781,417千円(前年同四半期比49.5%増)、セグメント利益(営業利益)は、110,136千円(前年同四半期比15.6%増)となりました。

② デジタルマーケティング事業

当事業においては、インターネット広告市場が堅調に伸長する環境のもと、主力サービスである運用型広告を中心に、既存取引先からの受注額の増額や新規取引先の獲得が順調に推移しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,976,426千円(前年同四半期比11.9%増)、セグメント利益(営業利益)は、317,879千円(前年同四半期比32.7%増)となりました。

③ その他

その他の事業においては、「チャットで話せる占いアプリーウラー」を主力としたプラットフォーム事業や、新規事業として、タレントマネジメントシステム「ESI」の開発・販売、M&Aプラットフォーム「Concerto」の開発・運営などに取り組んでおります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は105,069千円(前年同四半期比19.9%増)、セグメント利益(営業利益)は9,512千円(前年同四半期比144.8%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べて264,013千円増加し、4,026,292千円となりました。主な要因は、現金及び預金が125,569千円、受取手形及び売掛金が141,490千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べて182,390千円増加し、2,595,663千円となりました。主な要因は、借入金が97,480千円、買掛金が130,486千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べて81,623千円増加し、1,430,629千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が136,569千円増加したものの、剰余金の配当により利益剰余金が54,937千円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期会計期間における新型コロナウイルス感染症による各事業への影響は極めて限定的であり、現時点では2020年2月14日に公表いたしました通期業績予想に変更はありません。

一方で、新型コロナウイルス感染症は今後も多方面に重大な影響を与える可能性があると考えております。当社においても各事業への影響を注視し、業績予想に修正が必要と判断される場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	689,071	814,641
受取手形及び売掛金	1,442,178	1,583,668
仕掛品	35,253	27,045
預け金	209,325	250,028
その他	151,323	120,722
流動資産合計	2,527,153	2,796,106
固定資産		
有形固定資産	21,604	20,865
無形固定資産		
のれん	677,857	656,897
その他	23,195	19,007
無形固定資産合計	701,052	675,905
投資その他の資産	512,469	533,414
固定資産合計	1,235,125	1,230,185
資産合計	3,762,279	4,026,292
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,241,173	1,371,660
短期借入金	-	144,000
1年内返済予定の長期借入金	161,580	160,080
未払法人税等	138,995	83,573
未払消費税等	82,345	78,813
賞与引当金	16,648	21,407
その他	274,348	282,968
流動負債合計	1,915,093	2,142,503
固定負債		
長期借入金	498,180	453,160
固定負債合計	498,180	453,160
負債合計	2,413,273	2,595,663
純資産の部		
株主資本		
資本金	189,193	189,201
資本剰余金	116,447	116,455
利益剰余金	1,046,257	1,127,889
自己株式	△102	△102
株主資本合計	1,351,796	1,433,443
新株予約権	1,411	1,410
非支配株主持分	△4,201	△4,224
純資産合計	1,349,006	1,430,629
負債純資産合計	3,762,279	4,026,292

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)
売上高	2,349,482	2,860,637
売上原価	1,867,095	2,264,055
売上総利益	482,386	596,582
販売費及び一般管理費	325,685	373,635
営業利益	156,701	222,947
営業外収益		
受取利息	2	3
還付加算金	765	335
補助金収入	6,709	-
その他	61	68
営業外収益合計	7,539	407
営業外費用		
支払利息	644	715
支払手数料	632	907
その他	6	15
営業外費用合計	1,282	1,638
経常利益	162,957	221,715
特別損失		
減損損失	-	1,661
特別損失合計	-	1,661
税金等調整前四半期純利益	162,957	220,054
法人税、住民税及び事業税	58,020	78,927
法人税等調整額	△4,216	4,580
法人税等合計	53,804	83,507
四半期純利益	109,152	136,546
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△23
親会社株主に帰属する四半期純利益	109,152	136,569

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)
四半期純利益	109,152	136,546
四半期包括利益	109,152	136,546
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	109,152	136,569
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△23

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益 計算書計上額 (注) 3
	デジタルト ランスフォー ーション事業	デジタル マーケティ ング 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	495,797	1,766,070	2,261,867	87,615	2,349,482	—	2,349,482
セグメント間の内部 売上高又は振替高	26,764	750	27,514	—	27,514	△27,514	—
計	522,562	1,766,820	2,289,382	87,615	2,376,997	△27,514	2,349,482
セグメント利益	95,279	239,578	334,858	3,884	338,743	△182,041	156,701

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラットフォーム事業、新規事業等が含まれております。

2. セグメント利益の調整額△182,041千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間において、株式会社クラフトリッジの全株式を取得し同社を連結の範囲に含めたことに伴い、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては284,633千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益 計算書計上額 (注) 3
	デジタルト ランスフォー メーション事業	デジタル マーケティ ング 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	779,141	1,976,426	2,755,568	105,069	2,860,637	-	2,860,637
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,275	-	2,275	-	2,275	△2,275	-
計	781,417	1,976,426	2,757,843	105,069	2,862,913	△2,275	2,860,637
セグメント利益	110,136	317,879	428,016	9,512	437,528	△214,581	222,947

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラットフォーム事業、新規事業等が含まれております。

2. セグメント利益の調整額△214,581千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

前第3四半期連結会計期間から、従来の「ソリューション事業」のセグメント名称を「デジタルトランスフォーメーション事業」に変更しております。また、従来の「ライフテクノロジー事業」については、セグメント名称を「プラットフォーム事業」に変更しており、量的重要性が低下したため、「その他」の区分に含めております。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。